



1つのことを極め抜く

はじめまして！私は、今年度からカイコベ教室で非常勤講師として個別授業を担当している下川原昂です。

私は中学生時代に3年間、開智総合学院今津教室でお世話になっていました。

私は漫画やアニメにほとんど興味がなく、「趣味は何ですか?」と聞かれてもよく返答に困ってしまいます。ですが、そんな私でも1つだけ大好きな漫画とアニメがあります。それは「鬼滅の刃」です。この漫画の中のでてくる私のお気に入りのセリフがあります。「1つ出来れば万々歳だ。1つのごとしかできないならそれを極め抜け。極限の極限まで磨け。」このセリフは、6つある雷の呼吸のうち、一番簡単な一の型しか習得できない善逸に対して

師匠がかけた言葉です。言われた通り、善逸は一の型だけを極め抜き、なんと最後には自力で新しい七の型を作り出すことができました。

この考え方は勉強にも当てはまります。私は中学生時代、国語も数学も英語も社会も嫌いでした。これら4教科は受験勉強をしても楽しくなく、成績の伸びにとても苦しんでいました。そんな私を唯一支えてくれた教科が理科でした。得意な教科ではなかったのですが、ただ実験が大好きで、愛着のある教科でした。私は受験生時代のあつから、「理科だけは絶対に誰にも負けたくない!」と自分に言い聞かせながら必死に勉強しました。すると次第に理科の成績がみるみるうちに上がっていき、公立高校の理科の入試本番では90点満点中、86点をたたき出すことができ、志望校に合格することが出来ました。

下川原 昂(カイコベ蒲生四丁目教室)

皆さんは「1つのことを極め抜いた」、そんな経験がありますか?どんな分野でも全く関係ありません。勉強、音楽、スポーツ、料理、娯楽など、その中でも派生して、たくさんのジャンルがあります。人生の中で様々な選択が可能である今こそ、何か1つのごとに対して、一生懸命になれることはとても難しく、本当に素晴らしいことです。つまり、全てを上手くやろうとする必要はないのです。これさえあれば自分に誇りを持つことが出来る、そんな1つを何か皆さんに見つけてほしいと思っています。私もこれからカイコベ教室の1人の先生として、生徒を全力でサポートできるように試行錯誤しながら極め抜こうと思います。一緒に頑張らしましょう!



峯上のちよっと イイ話

TEACHER'S VOICE 峯上 颯太(トーキングキッズ)

トーキングキッズサマーキャンプ2024レポート!

こんにちは!今津教室と諸口教室でトーキングキッズを担当している峯上です。今回は、8月3日と4日に神戸の「しあわせの村」で行われたトーキングキッズサマーキャンプの楽しい様子をお届けします!

今年のキャンプは、ワクワクする準備から始まりました。みんなで「肝試しはどうしよう」「どんなアクティビティを用意しよう」「できるだけ英語を使ったプログラムを考えよう」とアイデアを出し合いました。私の役割は、外国人の先生達と協力してキャンプをスムーズに進めること。カトリナ先生やシルバ先生はキャンプのベテランで、私は初めての参加者として客観的な意見を出すことでした。

キャンプ初日には、自己紹介とキャンプの注意事項をお話ししましたが、びっくりすることに、子供達はすぐに他の教室の友達と仲良くなっていました。その姿を見て、子供達のエネルギーに改めて感心しました。

パーペキューの時間には、ちょっとしたトラブルがありました。子供達は見事な自立心を見せて、自分達で火を起こし、お米を洗い、準備を進めていました。その後は英語での振り返りタイムがあり、アイスクリームを食べながら頑張って自分達の体験を発表してくれました。

夜の自由時間には、子供達が提案した宝さがしゲームを部屋で楽しみました。寝る時には、恋話をみんなでしながらもちょうと布団に入り、リラクセスして過ごしていました。中には寝言を言う子もいて、その姿がとってもかわいらしく、キャンプの楽しさを一層引き立てていました。

二日目の朝は、芝生の上でズンパを踊りました。最初はちよっと照れていた子供達も、次第にノリノリになり、良い運動になりました。外国の文化に触れることがこのキャンプの魅力だなと実感しました。この日はアスレチックや体育館でバドミントンや卓球など、たくさんのアクティビティがあり、アクティブな一日を楽しみました。



キャンプの最後には、賞状授与と景品交換が行われました。英語を上手に話したり、お手伝いをしてくれた子供達には、10点券をプレゼントしていたのでそれを集計しました!みんなで頑張ったことを称え合い、充実した時間を過ごしました。

振り返り

今回のサマーキャンプは、私にとって初めての経験でした。子供達を預かる責任感と緊張感を感じながらも、準備や意見交換がキャンプの成功にどうつながるかを学び、英語でのコミュニケーションの大切さを実感しました。子供達が異文化に触れることの重要性を感じ、また大人としての自分が子供達の鏡であることを再認識しました。このサマーキャンプを通じて、多くの学びと成長を得ることができました!これからもトーキングキッズでいろいろなイベントを子供達と楽しんでいけたらなと思います!

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター



【本部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662

【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984

【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722

【高殿教室】
城東区成育 5-22-10-2F
TEL.06-6786-1008

【エニグマ】
中央区谷町 9-4-5-3F
TEL.06-6777-1563

【カイコベ】
城東区今福西 3-4-9
TEL.06-6180-6565

【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000

【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117

【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467

【カイチ予備校】
城東区今福西 1-10-17
TEL.06-6935-2220

【万緑会】
天王寺区上本町 6-9-10-3F
TEL.06-6772-5011

September 2024
Vol. 144
毎月10日発行



高木 秀章(塾長)

ない所は質問する」。これだけで大丈夫です。私の経験からはっきり言えることは「質問する子は必ず伸びる」ということです。



中学3年生

3年生はいよいよ勝負の2学期です。なぜ勝負なのか。それは2学期の実力テストや模擬試験の結果で私立受験校が決定し、それに2学期で固まる内申点を加味することで公立受験校もおおよそ決定するからです。合否を決めるテストは2月・3月ですが、受験校を決めるテストは2学期に集中しています。しかも、そのテストの数は学校の実力テスト3回、模擬テスト4回、定期テスト2回の合計9回。それが10月~12月上旬の2カ月ちょっとに集中しています。

夏期講習で頑張ったのは、これらのテストを乗り越えるためです。もし、まだ夏期内容の定着が甘い人は、9月中旬に弱点単元の復習を終わらせましょう。

また、受験問題の多くは複合問題や応用問題です。夏期講習の後半や、8月末から始まった文理学科や受験対策講座では、五ツ木模試や入試の過去問題を解き始めていることと思います。

ここからは、夏に定着させた単元内容を組み合わせて活用し、複合問題や応用問題を解くトレーニングを行います。ここで重要なことが「間違え直し」です。模試や受験問題は、3年間の内容をいかに理解しているかをプロの先生達が考え尽くして作った良問です。つまり、模試の過去問題1回分を徹底的に間違え直しすれば、3年間の復習が一通り終わったのと同じ効果が出ます。ここからは、過去問題の演習と徹底した間違え直し。そしてその中で、定着が不十分な単元に戻って穴を埋める作業が、偏差値アップの秘訣です。

この時期は重要なテストが続きます。その中で、必ず思ったようにいかないテストもあります。でも、そんな時こそ自分が試されていると思ってください。落ち込んで歩みを止めるのか。それとも間違え直しをして半歩でも前に進むのか。志望校を諦めなくなることもあるかもしれません。でも、志望校に合格できない大半の生徒は、当日のテストで不合格になったのではありません。その学校を受験すること自体を諦めてしまうのです。

この時期大切なのは、先のことを考えて不安になるのではなく、足元を見て日々すべきことを粛々とやっていくことです。不安な時は、絶対先生達に相談してください。

2学期は中1・中2では中だるみしやすく、周りに流される時期。そして中3にとっては、志望校決定において最重要のテストが重なるナーバスな時期です。私達も出来る限り、生徒達をしっかり見ていきますが、気になることがあれば遠慮なくご相談ください。特に、反抗期に入り志望校の相談などがしにくい場合は遠慮なくおっしゃってください。他人の私達だからこそ話しやすいという場合も多々ありますので、引き続きどうぞよろしくお願いたします。

夏期講習が終わりいよいよ2学期になりました。どうですか、みなさん最近勉強が難しく感じていませんか?また、中3生の皆さんは、受験の実感が湧いてきている人もいるかもしれません。今回は学年ごとの2学期の過ごし方についてお伝えしようと思います。



中学1年生

中1はようやく、クラスにもクラブにも慣れてきた頃ではないでしょうか。2学期は数学の「方程式の応用」、英語の「Doesの用法」、理科の「光や音」など、難しいポイントが目白押し。学習内容が難しくなります。また、全体的に慣れによる油断が出てきて、頑張りが効かない人が増え、学年平均が50点台~60点台まで下がってきます。

しかし、その反面、1学期のペースでコツコツ成績をキープ、もしくは平均点で3点ダウンくらいで踏ん張る人は、周りが下がることで、勝手に席次が上がります。カイチ生で小学校時代は目立たなかったけど、結果として周りを追い越し、上位校に合格している人が多いのはこの時期に、周りに流されずに踏ん張ったからです。

カイチ生は毎年中学3年生になると、200人いる生徒の半数が偏差値60以上になります。みんな、もともとできたわけではありません。クラブをしながら大変だけど、「日々の宿題をきちんとする」「定期テスト2週間前は頑張る」という当たり前を継続した末に、周りと差がついただけです。とにかく、日々の宿題をきちんとすること。分からない所は質問して帰ること。この2つをするだけで、力は十分ついていきます。



中学2年生

中学2年生はクラブでは3年生が抜け最高学年になり責任が重くなる時期です。また、本格的な思春期に入る生徒も多く、情緒の浮き沈みが激しくなり、人間関係で悩む生徒も増えてきます。そのような複雑な時期でありながら、学習内容は3年間で最重要。中2内容が受験での実力を左右すると言っても過言ではありません。実は受験では中1・中2内容だけで70%が出題されると言われています。特に英・数は、中1内容の積み上げの上に、中2内容があるので、中2内容をしっかり理解できたということは、同時に中1内容が理解できたということになります。つまり、中2内容をしっかり理解することで、受験の70%の内容がカバーできることになります。また、中2内容の定着のメリットはこれだけではありません。中2内容の積み上げの上に中3内容があるわけですから、中2内容の理解がしっかりしていれば、中3内容の理解は圧倒的に楽になります。

中2は受験まで時間が残り、学習への目的意識が曖昧で、悩み多き時期ですが、学力的には受験の基盤を作る大切な時期です。この時期のポイントは、人間関係などの悩みがある時は、友達も良いですが、できれば大人の人に相談することです。親でもいいし、学校の先生でもいいし、カイチの先生でもいいです。周りの大人も昔は、皆さんが悩んだことで悩んだ人はたくさんいます。もしかすると、友達と話すより、深刻にならずに済むかもしれません。また、保護者の方は子供達への声かけを忘れずしてあげてください。保護者の方なら、そのリアクションで子供達のコンディションを察することができます。

学習面のポイントは、実は中1と同じです。「塾の宿題をきちんとする」「わから

カイチからのお知らせ

- 夏期講習最終日に受験した模擬試験結果の返却は9月下旬~10月上旬を予定しております
- 文理学科対策講座(中3)の第1タームを8月31日(土)、9月7日(土)、14日(土)、9月21日(土)で実施します。
- 中間模擬テストを9月中旬に実施します。詳しい日程は授業内でお知らせします。
- 小学部診断テストを9月24日(火)・25日(水)に実施します。

Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

今津教室この夏の取り組み

辻田 衣里 (今津教室)

みなさん、こんにちは。今津教室の辻田です。さて、今年も長い夏期講習が終わりましたね。講習会はもちろん、小学生以下を対象としたビンゴ大会や、中学3年生の受験に向けた8時間自習など、他にも夏恒例のイベントがあり、各教室ではみなさん、カイチらしい夏を過ごされたと思います。

そんな今年の夏、今津教室は、特に先生達にとって、いつもと少し違った夏となりました。今回は、そのことについて私自身が感じたことも交えて、お話ししていきたいと思います。宜しくお願い致します。



▲今年のビンゴ大会も沢山の生徒が参加してくれました！ありがとうございました。

〈今津の改善点〉

後にもお話ししますが、今津教室では9月に、新教室が開けられました。それに向けてまず、カイチの塾長、ジュニア先生を含めて、今津教室の改善点について話し合いが行われました。そこで挙げられたのは、清掃や整理整頓、先生達の授業のクオリティ向上、もっと生徒と正直に向き合う、などといったことでした。

〈清掃・整理整頓〉

まずは、清掃の見直しをしました。これまでは授業が終わった後、今日の生徒や授業の様子をみんなで共有するためのミーティングを行い、その後から清掃を行っていました。そのため、清掃をする時間があまり取れず、行き届いていない部分がありました。そこでもっと時間が取れるよう、居残りの教室を一つにまとめたり、見送りを先生と掃除をする先生とで役割分担をしっかりとすると工夫をしました。また、始業時の10分清掃も習慣化するようになりました。

続いて、事務室の整理も行われました。本棚や物の配置を変えてみたり、要らないものは捨てて、残ったものを分類しなおす。この作業をすることで、スペースが広がり、作業効率もグッと上がりました。そしてなによりも整った環境に身を置くこと、気分がとても清々しいです。生徒のみならず、カイチでは毎回沢山のプリントが配られますが、整理できていますか？まずは要らないものを捨ててみるだけでも、だいぶ整理になります。クリアファイルなどを使って、科目ごとに分類してみるのも一つの方法であると思います。



▲文房具が綺麗に整理され、使いやすいになりました。峯上先生のアイデアです！

〈授業研修〉

夏休み中、さらなる授業クオリティ向上のために、各集団の授業を担当する先生を中心に、授業研修が行わ

れました。社員の先生は塾長のもと、非常勤の先生は教室長、熊谷先生のもとで行われました。内容は、授業時に後ろに入ってもらい、授業後にフィードバックを受けるというものでした。私自身も、塾長直々に研修をしてもらい、今年の夏はたくさん学ばせて頂きました。

時には自分なりに一生懸命、授業準備をしたつもりでも、上手くいかない日もありました。その時感じたのが、カイチの生徒達の中でも、一生懸命勉強したつもりでもなかなか点数に結びつかない子がいますが、こういう気持ちなのかということでした。一生懸命努力したのに、それが成らないときほどの絶望感がなかなかです。大人でも結構キツイです。(笑)でも上手くいかなかった時に、それでも前を向き続けている子は本当に強い子だと思います。社会に出ても、そのメンタル力は価値を成すと思います。上手くいかない時期は、みんなあります。大人だから言えることは、無理はしなくても、投げ出さず耐え忍んで、今ある目の前のことをきっちり取り組んでいれば、やがて物事は良い方向へ向かっていくことが多いということです。

ただ、少し近道をするなら、人の話を素直に聞いてみるのが良いと思います。私も研修で、塾長に何度も、授業構成をしっかりと、タイムテーブルを立てるところまでしなさいと教えられました。初めの方は私もなかなか頑固で、実行できていませんでした。しかし途中から、アドバイス通り実践してみると、上手くいくことが多くなりました。勉強でもなんでも伸びる子は、素直な子だと聞いたことがあります。是非、色んな人のアドバイスに耳を傾けてみてください。

〈生徒達と向き合うこと〉

もう一つ塾長に改善点として伝えられたのは、もっと生徒達と正直に向き合ってくださいということでした。上から目線ではなく、対等に腹を割って話す。私自身、これからの課題点であると思います。この塾に入って感じたのが、塾長も私達社員に、そのように接して下さい。そこが、この塾の魅力であると思います。ルールが多くて、テスト前になると自習にも呼ばれるし、部活で疲れて居眠りしていたら起こされる。しかし、私はこんな塾に入りたかったと思います。はるか昔通っていた塾は、自習に呼ばれることもなく、居眠りもよくしていました。今思えば、あの時の若い貴重な時間は二度と帰ってこないし、両親にも申し訳ないことをしたと思います。とは言っても、生徒達も部活もある中でカイチに通い、なかなか忙しくて大変な日々を送っていると思います。厳しくても、結果的には楽をさせる、そんな先生を目指していきたいです。

〈そして新教室、誕生〉

今月やっと、今津に新教室が誕生いたしました。場所は、第一教室のすぐ前にあります。外観は、ガラス張りでもっとお洒落です。気になる内装も、下は緑のカーペットで明るい雰囲気です。もちろん壁やトイレも綺麗で、さすが新教室という感じでした。

新教室の開設は、主に峯上先生が行ってくれました。

今年入社されたばかりで授業準備も忙しい中、二か月前から様々な打ち合わせをし、テキパキと進められていました。



▲生徒たちにも好評、新教室。「早くこの教室で、自習してみたい！」

〈最後に〉

今年はこのように、今津ではさらなる改善のために色々な取り組みがなされました。塾長も含め、今津の先生は特にこの夏、忙しかったと思います。教室長の熊谷先生も、夏期講習前に一度入院され、万全でない中ではありましたが復帰し、生徒の様子や成績を誰よりも一番に気かけ、日々悩まれていました。入院中は、面談など別の教室の先生で対応させて頂きましたが、復帰後やはり熊谷先生ともお話ししたいとおっしゃって頂くことも多く、再度機会を設けられる場面もあり、改めて信頼度が高い先生なのだと感じました。急遽、面談の変更に応じて下さった保護者の皆様、誠にありがとうございました。

非常勤の先生達も、熊谷先生の研修の中で、試行錯誤しながら、予習をしっかりと授業をしていました。授業のクオリティも、社員に負けないレベルです。生徒達のことよく見てくれていて、授業後のミーティングでも次々と意見が上がるのが印象的でした。

最後に今年の夏、夏期講習に参加して下さった方、またご紹介してく下さった保護者の皆さま方、ありがとうございました。生徒達も、習い事や部活動もある中でよく頑張ってくれたと思います。この夏は終わりましたが、これからも今津教室は、生徒と真剣に向き合い、より良い教室になるようスタッフ一同全力で取り組んで参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



▲中学3年生の9時間自習。写真からでも、本気度が伝わってきます。

Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

開智総合学院教務部の新しい挑戦 第1弾 中3強化合宿

高木 直也 (諸口教室長)

私が開智総合学院に入社してはや11年が経ちました。当時と比べると生徒達に求められるレベルも上がり、それに伴い、指導する側のレベルアップも強く求められるようになりました。開智総合学院としてもその激変する教育環境に対応すべく、さまざまなことにチャレンジし、試行錯誤を繰り返してきました。(フリーラーニング講座、文理個別講座、タブレット講座などなど。)カイチ予備校、エニグマなど高校生の指導や、小学入試の万緑会、パスカルキッズがフランチャイズで全国展開、今年は新たに個別クラスに特化した教室「カイコベ」も誕生するなど、カイチの中でも目まぐるしい変化と進化を続けています。

そんな中、私のカイチの中での役割は、「文理学科設置校をはじめとした、志望校にカイチ生を合格させること」です。2017年に前任の岡本先生から「文理学科講座」を引き継ぎ、カイチ全体33名、私が教室長を務める諸口教室は12名合格と着実に志望校に送り届ける生徒の数を増やしてきました。

しかし、文理学科講座もカイチの教務の仕組みも成熟し始め、そろそろ高校入試分野でのカイチの天井が見えてきた、今日この頃。何か起爆剤が欲しい。カイチが今よりもっと多くの生徒達を志望校に合格させる企画がないか？と考え始め、ずっと長年企画段階のまま眠っていた「中3合宿」開催に思い至りました。

私が学習合宿を経験したのは前職にて。3泊4日で阿蘇に泊まり込み生徒達と朝から晩まで勉強しました。

その合宿にて私自身が得られたものは非常に大きいものでした。また合宿から帰ってきた生徒達の勉強に対する取り組み方の変化も大きなものでした。その経験を思い出し、「カイチで再現できないか」と今回の夏期合宿を企画しました。日程は2泊3日。会場は「ホテルフクラシア大阪ベイ」少年自然の家でもいいのではという声もありましたが、経験上、宿泊施設はしっかりしたところでないと生徒がもたないと感じました。自習開始は早朝6:00からOK。毎朝9時からテスト(テスト結果でクラス分け、優秀者にはメダル授与)、午後からは特訓授業、夜は2時間半徹底した演習特訓(最大23時まで)。私がかつて経験した「強化合宿」を可能な限り再現しました。開始直前、南海トラフの警報もあり、開催が危ぶまれましたが、66名の生徒にご参加いただきました。

3日間の合宿を終え、想像以上の収穫がありました。

① カイチ生は強い!!

経験上、3日間で必ず体調不良者、途中離脱者はでると踏んでいましたが、結局最終日まで脱落者はゼロ。特に目を見張ったのが、講習中は居残りもそこそこに帰っていた生徒達が、皆が寢室に戻っていく中23時過ぎまで頑張っていたり、早朝6時から自習室にやってきて勉強をしていたりと、普段の生徒達とは違う姿を見ることができました。

② 合宿という特別な空間が講師生徒にあたえたもの。

事前アンケートには「合宿にしないでよいのではないか」というご意見も多数頂戴いたしました。私自身も正直なぜ合宿なのかという明確な答えは持ち合わせていませんでした。しかし、今回の合宿を経て「普段ではありえない環境をお父さんお母さんから与えられたこの大切な3日間で絶対に成績を上げる」という思いを講師はもちろん、生徒達もみな持ったことが、3日間誰もかけることなく、頑張れた要因になったのではないのでしょうか。

「3日間で必ず何かを持って帰らせる」指導する先生達も相当な重圧はあったかと思えます。教える先生達もこういうプレッシャーのなか場数を踏むことでレベルアップできます。生徒達と同じくらい、先生達にも多くの収穫がありました。



▲みんな真剣に取り組みました。



▲坪田先生の激励。気合が入ってました。



▲ここが一番の楽しみです。



▲自習も朝6:00からがんばりました。



▲先生達も成長できた合宿でした。



▲66名が参加!みんな精一杯がんばった!

③ 2泊目で変わる生徒の表情

初日は、「言われたことをこなすだけ」というような雰囲気でしたが、2日目の晩あたりからは自分からどんどん学習に取り組み、ただぼやっと時間が経過するのを待つのでなく、最後まで課題を終わらせようという強い意識を生徒達から感じる事ができました。

④ 合宿後の学習姿勢にも変化あり。

合宿後、お盆休みをはさみ、その後どうか心配でしたが、高いモチベーションで夏期講習を終えることができました。特に例年、部活動引退直後で部活を引きずる生徒も散見されるなか、合宿参加者はうまく切り替えができるきっかけになったのではないかと思います。

いよいよ勝負の秋がやってきました。10月11月頃に成果が出てくれればいいなと思っていましたが、早くも8月のV模試や9月初めの実力テストで大きく結果を残している生徒達もいるようです。そんな生徒達が「合宿行ってホンマに良かった」と言っている姿を見て、開催までに相当葛藤はありましたが、実施できて本当に良かったと思っています。今回参加してくれた生徒の皆様、送りだしていただいた保護者の皆様誠にありがとうございました。この夏を無駄にせず秋も職員一同全力で指導して参りますので、何卒今後ともよろしく願いたします。